

事業計画

当財団は、昭和25年12月20日、港湾管理者である呉市長を設立代表者に据え、運輸大臣の許可を得て「財団法人呉海員ホーム」としてスタートし、呉市とともにこれまで73年の歴史を刻んできた。

平成8年春には、呉市が所有する施設との複合施設として「ビュー・ポートくれ」が建設され、呉市を始めとする関係者のご支援、ご協力と、市民のご理解を得て、オープンから28年目を迎えようとしている。

1 会館の運営方針について

(1) 宿泊部門

物価上昇などによる費用の増加を考慮しつつ、コスト管理を徹底し、宿泊料金値上げをはじめ、収益の確保に向けて、次の項目に取り組み、宿泊客の獲得を目指す。

- リピーターの積極拡大
- ホームページの充実によるネット予約の獲得拡大
- X（旧ツイッター）によるPR
- 観光客、地元企業や海上自衛隊への販売強化
- 市内の競合宿泊施設の動向に対する機敏な対応
- 利用客のニーズの把握と積極対応

朝食レストラン営業については、「設備更新」「コスト管理」「人材確保」の観点から今後の営業を検討する。

(2) 貸会場部門

ホームページ等を活用した新規利用者の獲得とともに、地元企業や継続利用者への呼びかけを積極的に行い、利用者の増加を目指す。

(3) 生活相談事業

引き続き1階ロビーに「船員しんぶん」と船員会報「海員」を設置して、船員の広報活動を支援する。さらに全日本海員組合と連携を図り、船員やその家族からの相談に応じる。また、訪船等により船員とコミュニケーションを図る。

(4) 受託事業

呉市から指定管理者として指名を受けている呉市きんろうプラザの管理業務と、ビュー・ポートくれ管理組合から委託を受けている共用部分の管理業務については、これまで同様、誠実に業務を遂行していく。

2 職員について

(1) 職員の採用

職員の欠員が出た場合は、補充等を検討し、適切な人員配置を図る。

(2) 職員の教育

接客サービスの向上のため、外部マナー講座への参加や、日常業務を通じた職員教育を実施する。

(3) 職員の労働条件

職員の賃金改定は、労働意欲を維持する観点から、支払い能力を考慮しつつ、必要とする賃金改定を行う。

賞与の支給については、経営状況を踏まえ判断する。

3 呉市からの借入金について

令和2年度から令和5年度までは、新型コロナウイルスの影響や物価上昇による支出増加を理由に、減額の猶予を受けていた。令和6年度以降は、従来の返済計画に基づいて毎年290万円の減額を行っていく。

4 施設の維持補修等について

施設の老朽化が大きな課題となっており、優先順位をつけて設備維持、補修を行う。これまで同様、会館運営に支障をきたさないよう、施設の日々の点検を徹底し、劣化、消耗が進む設備機器については可能な範囲で更新を行う。

なお、今後の施設の更新・改修については次のとおり。

(1) 海員会館設備の更新・改修

多額の支出を必要とする設備の更新・改修

① 吸収式冷温水機の更新（耐用年数30年）

まもなく耐用年数を迎えるため、近い将来、交換が必要になる。

改修費用 約5,000万円（税抜き）

② 客室の改修

6階、7階部分 シングル5室・ツイン3室・和室7室

改修費用 約2,000万円（税抜き）

③ 客室室内空調機

改修費用 約1,500万円（税抜き）

燃料費高騰や部品確保が難しい場合、改修予算を上回る可能性がある。

(2) 複合建物全体の更新・改修

呉市きんろうプラザを含めた複合建物全体のエレベーター、外壁、中央監視盤、自家発電設備等、建物の老朽化が大きな課題となっている。

今後の施設の改修計画の検討にあたっては、複合建物全体の運営の方向性を検討し、時期、負担額等について、引き続き呉市、金融機関を含め連携しながら今後の検討を行う。